

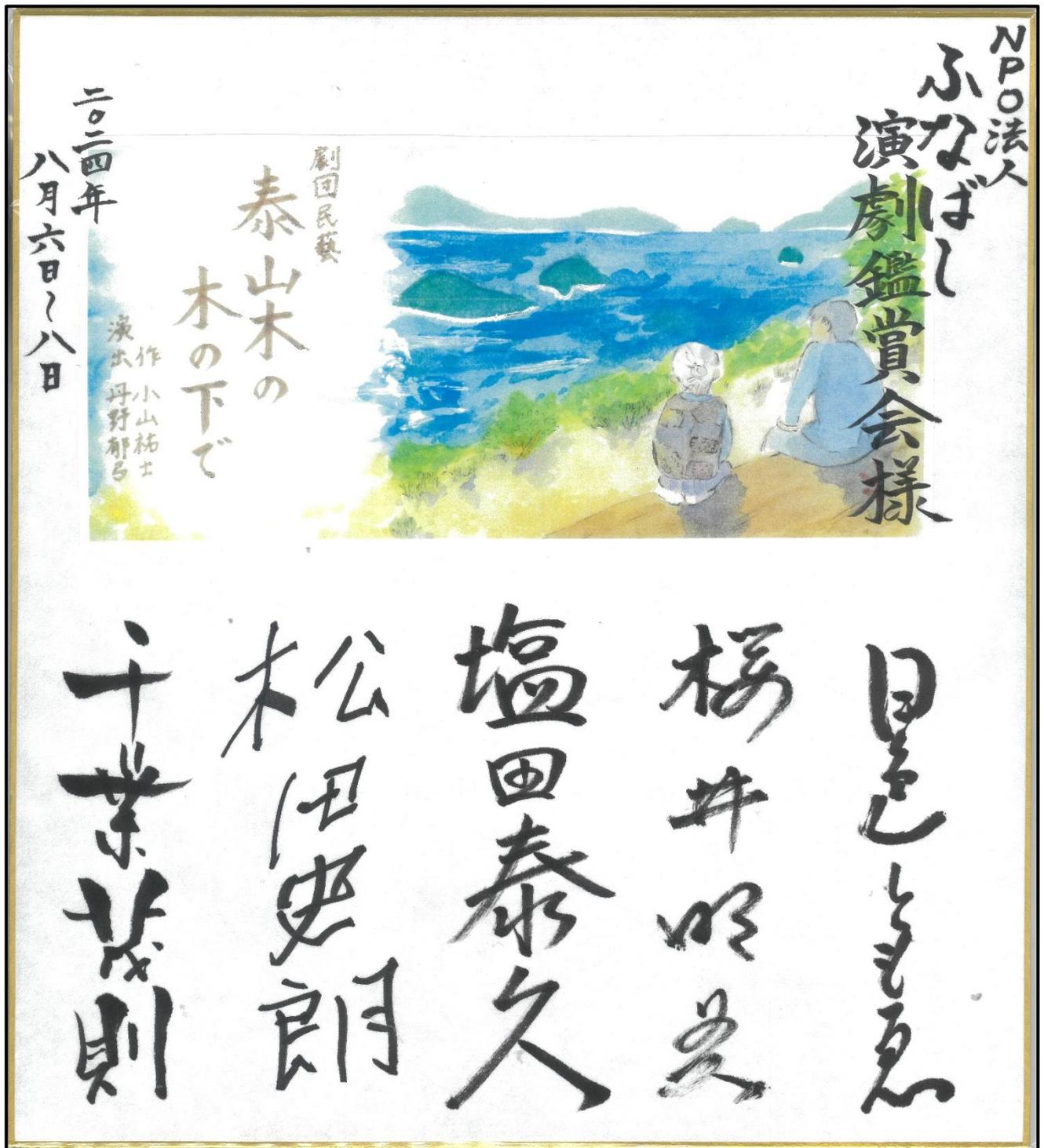
第212回 劇団民藝公演

2024年8月

「泰山木の木の下で」

感想文集

NPO法人 ふなばし演劇鑑賞会



8月6日に観ることが出来て良かった。朝ドラでも同じ戦後が舞台で、戦争で心に傷を負った人たちがいつぱい出て来て、分かったつもりになる事も多いけれど、人の数だけ心の傷もあるし、広島・長崎の人たちは更につらい戦後だったんだと改めて思った。

(コリン星 西田さおり 40代)

日色ともゑさん同年代ですので、どんな活躍をしているのか興味関心がありました。予想通り可愛いおばあちゃんで、多くのセリフを語っており、まだまだ活躍が出来そうで嬉しく思います。

時代は進んでゆくも、愚かな人間は必ず存在しており、平和の大切さを解らず、現在の社会情勢を悲しく思います。これからも良きお芝居を祈っております。

(前田文子 80代)

原爆投下は、その下で暮らしていた何十万人もの生活を一瞬で悲しみに変えてしまった。ハナ婆さんも、ハナさんの罪を調査する木下刑事も、人には言えない悲しみがある。被爆の苦しさ、後遺症、それを理由にした差別。その中で生きることの温かさと希望を見出すこと、力を感じる作品でした。広島弁などの方言も良かったです。日本は核兵器禁止条約に加盟すべきだと思います。

(ハッピープリンス 春日井治 70代)

日色ともゑさんがとてもお元気で、熱演されていて感激しました。広島の現実がわかり、今でも苦しんでいる方がたくさんいることに胸が痛みました。

(ワディ&ホライズン 磯野順子 60代)

日色ともゑさんは、私がファンである永六輔さんのラジオ番組に出たことがあり、田んぼで米を作っていると言っていたのを覚えているので、舞台で観るのを楽しみにしていました。日色さんは、人生の苦しい体験を経ても、なお明るくしたたかなハナ婆さんの役にピッタリの方でした。

さて、私が印象に残っている場面の1つは、木下刑事が「髪を垂らした女」と過ごすところです。『泰山木の木の下』の会報の4ページに、女を演じた桜井明美さんの文があります。「彼女(髪を垂らした女)によって、木下の心は開かれてゆき、彼女の心にも温かいものが流れていく」。まるでピアカウンセリングのように原爆によって、心や体に傷を負ったもの同士は、相手の傷の痛さ深さがわかり、互いに寄りそうことが出来たのだと思います。

この劇の最後の場面では、病気で重篤になったハナ婆さんの夢の中に、既にあの世に旅立った夫と9人の子供たちが出て来て、「ハナさん、もうこちらの世界においでよ。こちらは悩みも痛みもない平和な所だから」と言います。ハナさんはその優しさに満ちたもう1つの世界へと旅立つて行くのでした。死はその人に用意された最後の安らぎのプレゼントなのかもしれない。そのハナを見守る泰山木の花は、私も大好きな花ですが、何しろ太い木なので、近頃減ってきているのが残念です。このお芝居は、原爆症や原爆孤児のこと、障がい児の問題、そして夫婦のあり方やマスコミの報道の事など、いろんな問題が盛り沢山で一回観ただけでは受け止めきれないので、出来れば小山祐

士の原作(戯曲)を読んでみようと思います。劇団民藝の皆様、ありがとうございました。

(その場しのぎ 加藤みどり 70代)

場面が切り替わる時のセリフが、良いタイミングで切れていて、その後の動きやセリフを想像することが出来て面白かった。ともゑさんが警察の人に、言っていないと言っていることをたくさん言っていて、とても面白かった。放射能を浴びると、次の世代や後から症状が出てくることがわかった。

(ゲキ友 安東青香 10代)

孫にとつては難しいお話だったようです。この観劇をきっかけに、戦争についてさらに妊娠中絶、ちよっと大人の社会について語ってほしいと思います。

(ゲキ友 加藤弘子 60代)

大変な時代を生き抜く事は、現代にも通じる物があると思います。平和な時代になつてほしいと思います。

(ローリエ 無記名 80代 女)

声が少し聞き取れなかった部分あり。素晴らしかったです。ありがとうございます。

(リズム 無記名 80代 女)

原爆の悲惨さに胸をつまされました。子どもを原爆で失った人。被災した夫婦が奇形児を育てていく心の葛藤を、まざまざと知らされました。テレビを見ていた原爆の悲惨さより、心に迫るものがありました。

(おいしい風 無記名 70代 女)

ハナさんの人柄の良さは、周りを惹きつける魅力、素晴らしいお芝居でした。

(無記名 40代 女)

もう少し声が大きいと良いと思います。

(無記名 女)

長いセリフ：ありがとうございます。一番後ろまでよく聞こえました。薄墨のような天気：なのに心に思い浮かびました。(花22002 無記名 60代 女)

とても感激致しました。戦争は恐いと改めて思います。今も怖い、あちこちでミサイル発射で、やめてほしいです。日色ともゑさん、お茶目かわいいです。ガンバってください。

(デッサン 兼平秀子 70代)

胸にジンとくる。涙が出ました。皆さん、お元気で頑張ってください。

(デッサン 石塚美枝子 70代)

大草原の小さな家のキャロライン・イン・ガルスさんの声ですよね!!日色ともゑさん、会えて嬉しかったです。小さくて元気なともゑさん、いつまでも活躍して欲しいです。

(バジナ 小林文子 50代)

ピカドンが落ちた日に、この劇が観られて良かった。この国は原発を再稼働し、放射能被害を隠蔽しながら、核がないといいとウソを言う。他人ごとのだナーとつくづく思う。だからこそ、観劇でも映画でも、文化芸術を通して、忘れないようにして行きたいと思う。

(ラ・シーク 無記名 60代 女)

8月6日、平和式典、原爆投下から79年を経て、今日この芝居を観ることが出来、良かったです。後世に語り継がれていかねばならないこと、核を根絶させなければならぬと思います。

(ピースレインボー 池沢美千世 50代)

とても感動しました。

(ライラック 山口美智恵 70代)

主演の日色とも多さんが、背中の丸まったとてもかわいいお婆さんになっていて、悲しい話ではあるがとても良かった。

かなり以前に、漫画を原作にした原爆症を描いた映画を観たが、原爆症の人から話を聞いたことはほとんどなく、原爆そのものの恐さをいろんな場で知ってはいたが、今日のお芝居は、静かにそれぞれの立場からの苦しみを描いていて、それを知れることもでき、演劇の表現もとても良かった。

(ザツハトルテ 上野 50代 女)

感動しました。

(60代 男)

良いお芝居でした。内容はもちろんですが、日色さんの台詞の多さと、日色さんや皆さんのセリフの聴きやすさに感動しました。

(ハイネ 中川奈津子 60代)

原爆の日に観れたこと、改めて感じるものがたくさんありました。方言のきいたセリフがとても心に残りました。忘れてはいけないこと、8月6日に思い出すようにしたいと思います。

(デイジー 金山秀代 50代)

今日の日を観るべきお芝居と感じました。ありがとうございます。

(亜童夢 長江広勝 50代)

奇しくも今日、8月6日、広島に原爆が落とされた日に、この芝居に出会えたことが嬉しく思えました。セリフのやり取りが面白く、どんどん引き込まれました。重たいテーマではありますが、今の平和を改めて感じさせてくれる良いお芝居でした。ありがとうございます。

(パンプキン 築瀬 女)

8月にふさわしいものだった。日色とも多さんの芝居に、ただ引き込まれました。

(ピースレインボー 笠原真弓 80代)

よい時間でした。とても、奥深さを感じました。欲を言うなら、もうほんの少しでいいから笑えるシーンや、滑稽なシーンがあると私はもっと満足です。

(M・O 70代 男)

始まりの歌、良かった(歌詞も)。日色さんステキで、最後のシーン、ジンと胸つまりました。

(ライラック 本間宮子 70代)

北林谷栄さんと、今回の日色とも多さんを比べてみてしまった。長い「民藝の仲間」の一人として幸せを感じました。

日本の夏は戦争と平和を考えさせられる時期であり、良い出し物でした。

日色さんの戸板に水を流すような長台詞、聞き入りました。

(宙 田口誠雄 80代)

圧巻でした。落ち着いた舞台装置の中で、小さな巨人のエネルギーみなぎる演技に飲み込まれました。運命理不尽、不条理を耐え、乗り越える登場人物たちの気迫は、全ての観客に響くものだと思います。ただ、見えざる存在の象徴としての泰山木は、最後まで見上げるだけの方が良かった気がしました。イメージだけで十分に見えていました。

(なのはなA 松井郁子 60代)

戦争のむごさ、原爆の悲惨さ、何年たっても癒えない悲しみ、戦争は何にもいいことない！今再び、戦争の足音が聞こえる。何としても阻止しなければと切に願う。

(ミモザ 榎陽子 80代)

ハナ婆さんと木下刑事を中心にして、周囲の人達のそれぞれのストーリーを通して、戦中、戦後、(特に原爆投下後)の苦しみ、悲惨さが静かに語られた舞台だった。戦後79年の8月6日。広島での平和祈念式典をYouTube配信で見た後での鑑賞と言うタイミング。あなたはどんな明日を作りたいのか、作るつもりなのか、そんな問いを突き付けられた気がする。「経験の共有が共感を作り、その共感が平和を守る。」どこかで読んだ言葉を思い出した。

(富士桜 牛口さと子 60代)

私は耳が遠くなり、時々聞きづらい時がありましたが、幼い頃の九州での戦争体験も浮かびました。ありがとうございます！

(ハッピープリンス 田中彌生)

観てよかった。さすが日色さんの名演技、演者の皆さんの熱演、ありがとうございます。

(ワデイ&ホライズン 磯野吉哉 60代)

戦争反対！

(ハッピープリンス 田中弘之 60代)

日色さんの長セリフに驚くばかりでした。

(オリオン 石林純子)

良かった。感動しました。

(無記名 70代 女)

「原爆」を語り描く小説や戯曲には、3種類の型があるように思う。一つは戦争直後の時代に広まった新型爆弾の凄まじい破壊力を訴えるもの。一つには今までは知らなかった、その放射能の目に見えぬ脅威や汚染を描くもの。そして更に時代が進むと、三番目に放射能にさらされた人間達の恐怖やとまどいを描くものであり、これは戦後79年を経て、ようやく到達した被爆の姿である。

ハナ婆さんはじめ登場人物達の、自分達よりも汚染の影響を蒙る子や孫達のことを思う心は哀れでもあり、美しくもある。「泰山木」とは、戦中戦後を通して悠然と白い大きな花を咲かせる超越した大きな存在であり、我々人間はその中で泰山木の庇護を受けながら、懸命に生きるささやかな存在であることを示しているが、このような姿こそ、原爆の巨大な力よりも更に大きな力を感じさせるものであることを、必死に訴えていることが良く感じ取れた。

(じゃんけん 糠澤尚夫 80代)

日色ともゑさん、年の割にお元気で若い。
(無記名 70代) 日色さんの声が、2階に届いていたか気になりました。
(オリオン 小林友代)

大変良く感動しました。

(ライラック 内藤貞夫 80代)

日色さんの可愛らしさが、深刻な問題の暗さに未来を指してくれていた。

(ライラック 無記名 70代 女)

私たち世代は戦争について、深く知る機会がありません。今回、この演劇を観て、改めて戦争に対して深く考えるきっかけになりました。戦時中に多くの人が犠牲になっていたことは知っていましたが、終戦後にも戦争被害で苦しんでいる人たちがたくさんいたことを知り驚きました。原爆症を負って生まれる子、ケロイドなどの後遺症が残ってしまった人、原爆がもたらす恐ろしさや怖さを改めて痛感し、これが実際に日本で起きたことだと思ふと胸が引き裂かれる思いでした。

深く心に残ったのは、ケロイドの女性が刑事に語り掛ける場面と、戦争で死んだ子供たちがハナ婆さんに語り掛ける場面です。どちらも大きな苦しみを経験した人から発せられる、つらく強いメッセージでした。

戦争を憎むとともに、二度としてはいけないという強い思いでした。この演劇では、戦争被害に苦しむ人達の思いがとても細かく強く描かれていて、戦争にあまり詳しくない私達世代にも理解しやすく、考えるきっかけを与えていただけの経験になりました。

(はこねうつぎ 油利美智 中3)

「優良多子家庭」という国の表彰制度があつたことを知った。それは、「戸長」を表彰していることから、大日本帝国が理想とする「家族制度」の維持確保を主眼とするものではなかつたかとも云われている。

さて、芝居が進むにつれ、ハナ婆さんだけでなく、木下刑事も髪を垂らした女も広島島の原爆の被害者であることが明らかになる。彼らも含めピカの被害者が受けたイジメ、差別や自分の子どもを産む産まないで苦悩した姿も描かれている。

「黒い雨」を浴びた人も含め、被爆者が近隣住民あるいは親類縁者から疎まれるなどあまりに悲しいことではないか。なぜ原爆を落とした加害者・米国、戦争を起こし国民に塗炭の苦しみを強いた大日本帝国への怒りや抗議を集めることはできないのか。

ひるがえつて、「泰山木の木の下で」のポスターのハナ婆さんから受けた印象はしとやか、落ち着いた人との先入観を持って観劇に臨んだ。が、ハナ婆さんのすばらしさ、したたかさに驚いた。戦前、自分の家庭は国の表彰を受けた。戦後、警察の取調べを受けるに至っている。戦死、原爆によつて9人の子を亡くしたハナ婆さんとしては、とてもしとやかに生きていけなかつたのだと妙に腑に落ちた。

(荒馬 草野高德)



おめでとうございます！

「泰山木の木の下で」サイン色紙当選者

- 1746 ハッピープリンス 春日井治さん
- 1993 はこねうつぎ 油利美智さん
- 2266 ゲキ友 安東青香さん

※当選した方は申し出てください。



アンケート枚数 44 枚	(回収率 2.8%)
当日会員数 1,874 名	
例会参加者 1,554 名	(参加率 82.9%)